〝1勝の壁〟越え全国ベスト16進出だ

インカレ3年連続出場へ 女バス

全国大会が結束の源

女子バスケットボール部は昨年、2年連続でインカレ出場を果たした。12年ぶりの出場だった2023年の流れを絶やさず、常連校の道を歩み始めた。今季はその先を見据えて戦う。

出場決定で士気向上

昨秋の関東大学リーグは2部Aブロックで4位と上位をキープし、インカレに臨んだ。インカレのグループステージ第1戦で北陸大に敗れたものの、第2戦で鹿屋体育大を89－55と大差で下し、トーナメントに進んだ。トーナメント1回戦では山梨学院大に惜敗したが、2年連続でインカレのトーナメントに進んだことで、常連校としての土台は築いた。

松田光琴（こどもコミュニケーション4年、千葉・市立松戸高）は「インカレに出ることは簡単ではない」としみじみと話す。ぎりぎりの戦いが続いた過去2年の秋季リーグ戦を思い返せば当然だ。それを承知で目標はインカレのトーナメントでの1勝、つまり全国のベスト16に定めることに意味がある。インカレを意識する意味について福嶋恋（経営社会4年、千葉英和高）は「おととしインカレ出場を決めて、そこからみんな士気が上がった」と振り返り、結束力の源となっていることを認める。

リーグ戦での1部昇格も含め、一つ上を目指すには、練習への取り組みが何より大事になる。松田は「試合前には試合を想定できるよう対人メニューをメインにする。ケガに気をつけながら強度を高めるため、コートの外からも全員が声をかける」と練習中の意識の持ち方を重視する。福嶋は「練習前の円陣で、その日意識することを全体で再確認する」と意思統一を強調する。

「より良いチームを」

今年のチームについて松田は「昨年試合に出ていたメンバーが多く残っているので、より良いチームを目指し、さらに個人力もアップしていければなと期待している」と話す。過去2年の経験は確実に今年のチームの力となっている。3年連続インカレ出場を狙う江戸川大に常連校らしい力強さが感じられる。

私たち、こんなに成長しました

迫力あるプレーで活躍するメンバーたちの幼少期を大公開。エピソードも語ってくれました。意外と変わっていない？

新垣 星

マス・コミュニケーション4年、福岡・精華女子高

沖縄で育ちました　お母さんと沖縄の辺土名で撮った一枚。沖縄県出身の新垣は、小さいころよくおじいちゃんの家に泊まり、海に遊びに行っていたと懐かしい思い出を振り返った。

エズゴ 梨々杏

経営社会4年、千葉・昭和学院高

ゴーカートに夢中　ミニーマウスのカチューシャを身に付けているのは、4歳ごろ母とディズニーランドを訪れたエズゴだ。当時は、ゴーカートのアトラクション「グランドサーキット・レースウェイ」が好きだったという。

細野 未琉香

経営社会4年、千葉・市立柏高

毎年短冊に願い事　七夕に家の玄関前で撮影されたものだ。短冊を背に写る細野は、毎年七夕の時期になると近所の人から笹をもらい、願い事を書くのが恒例だったそうだ。

原田 華怜

こどもコミュニケーション4年、茨城・明秀学園日立高

頼れるお姉ちゃんに　4歳の時、原田はお姉ちゃんになった。写真は病院で撮られたもので、生まれたばかりの弟を抱きかかえると、幼心に「お姉ちゃんになったんだな」という実感が湧いたという。

☆紙面編集　野村 春輝、浅水 優佳、宮古 侍音

福祉の
プロになる。
EDOSEN
学校法人 江戸川学園
江戸川学園おおたかの森専門学校

・介護福祉学科
・こども福祉学科（保育）
・心理・社会福祉学科
・社会福祉士養成学科（通信課程）

0120-538-505（携帯可）
TEL 04-7153-8500（入試・広報課）｜ FAX 04-7153-8501
E-mail fukushi@edogawa-u.ac.jp（入試・広報課）
http://www.edosen.jp えどせん